

〔12月28日／聖家族〕

〔説教〕

「聖家族」の祝日は、すべての家族が、神に愛されていることを祝う日です。聖家族とは、神に愛されている家族のことであり、すべての家族は神に愛されています。だから、すべての家族が、聖家族なのです。

福音記者マタイは、救い主イエスが、いのちの危険を免れるために、ヨセフとマリアに守られて、エジプトに逃げなければならなかったことを伝えています。ヘロデは、すべてのいのちを救うために来られた方を殺そうとしたのです。いつの時代にも、必ずと言ってよいほど起こることですが、人間は、権力や富を得ると、まわりのいのちを犠牲にしても、自分が得たものを守ろうとします。富や権力が大きくなればなるほど、犠牲にするいのちを増やしていきます。今日の福音朗読では省略されていますが、聖家族がエジプトに逃れた後、ヘロデが、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺したと伝えられています。テロリストがいるかもしれないという理由で、何の罪もないいのちが殺されていきます。多くの聖家族の生活が破壊されます。その結果、憎しみなど抱いていなかった人たちの心に憎しみが生まれ、新たなテロリストが誕生します。すべての家族を愛しておられる神は今、私たちに、自分の利益を守るのではなく、すべてのいのちを守るように命じておられます。すべての家族の愛を守るように命じておられます。愛されている喜び、愛する喜びが守られている限り、テロリストが生まれることはないのです。聖家族から、テロリストが生まれることは、決してないのです。

ヘロデは、聖家族を殺すことができませんでした。ヨセフは、寝ている時に、「起きて、幼子とその母を連れて」旅をするようにと告げられました。このお告げは、ヨセフにとって、神の愛の言葉でした。ヨセフは、神の愛を信じて、忠実に従いました。疑わず、反論せず、神から命じられたことを、すぐに実行しました。しかし、考えてみれば、「幼子とその母」とともに旅をすることは、大変な困難がともないます。住み慣れた土地を離れて、見知らぬ土地で生活をしなければならないことは、多くの場合、苦痛です。楽しい旅行ではないのです。生活をしなければならないのです。不安定な生活を強いられるのです。一所懸命に努力すれば、必ず報われる、とは言えないのが現実なのです。そして、今現在も、多くの聖家族が、困難な旅や不安定な生活を強いられているのです。すべての家族を愛しておられる神は、私たちに、まず、現代の聖家族の困難や苦

労を理解する努力をするように求めておられるのです。私たちは、理解しようとしているのでしょうか。物事を完全に理解することはできません。しかし、理解しようと努力することはできます。謙虚な気持ちになることはできます。理解しようとしていれば、優しくなれるはずです。自分のことを理解してほしいと思ってばかりいるから、まわりに優しくなれないのです。怒りがこみあげてくるのです。もっと、理解し合う努力をして、優しくなりましょう。優しくなっていくことから、すべてが始まるのです。優しい心でまわりを見る時、すべての家族が聖家族に見えるはずです。嬉しそうにしている家族を目にしたら、自然と笑顔になれるはずです。困難を抱えている家族のことを知ったら、涙が出てきて、祈りたくなるはずです。教会は、祈る人々の集まりです。祈る人とは、優しい心を持っている人なのです。

聖年の歩みが、終わろうとしています。しかし、希望の巡礼者に歩みは終わりません。聖家族が、希望の巡礼者だからです。ヨセフは、どのような困難をも受け入れて、旅を続けました。希望があったからです。今日の、自分の苦労が、すべてのいのちのための、より良い未来につながるという希望があったからです。私たちも、救い主の家族と同じです。私たちは、希望があるから、祈り続けます。希望があるから、教会に集まっています。私たちがささげているミサは、希望の祭儀です。希望の祭儀では、希望の歌が歌われ、希望のみことばが分かち合われます。私たちがささげる祈りはすべて、希望の、力強い宣言です。私たちが分かち合うパンは、私たちの希望であるキリストのからだです。一つのパンを分かち合う私たちも、キリストのからだとなります。聖家族となります。そして、私たちは、この世界の中で、毎日の生活を通して、希望の福音を宣べ伝えるために派遣されます。私たちは、これからも、聖家族として、希望の巡礼を続けていきたいと思えます。希望は、私たちを欺きません。